

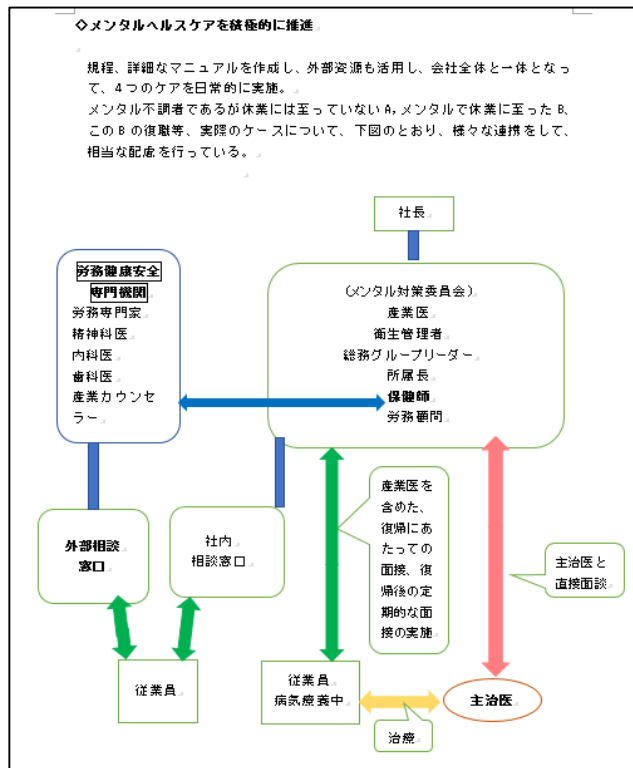
中小企業における保健師を活用した健康管理面での取組事例の紹介

令和3年10月1日から7日まで「向き合おう！ 心とからだの健康管理」をスローガンに第72回全国労働衛生週間が実施されます。本年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止に向けた副スローガン「うつらぬうつさぬルールとともに みんなで守る健康職場」も設定されています。

全国労働衛生週間を迎えるに当たって、当支署管内で実践されている中小企業での保健師を活用した健康管理についてご紹介します。

■保健師を積極的に活用したメンタルヘルス対策

健康管理体制として会社内部に保健師を入れたメンタルヘルス対策委員会を発足させ、精神科医・労務専門家を含む外部専門機関と連携。外部専門機関との連携は保健師が中心となっていた事例。



(フロー図抜粋)

■新型コロナウイルス感染症拡大防止対策等

現在、新型コロナウイルス感染症拡大防止の有効的な手段はワクチン接種と言われています。ワクチン接種に関しては副反応などを含め疑問に思うこともたくさんあると思います。この疑問を解消する取組として企業の保健師が「健康だより」を発刊し、疑問解消に努めている事例。

保健師より
R3. 6月 号外

《健康だより》
「新型コロナウイルスワクチン副反応」

新型コロナウイルスワクチン接種が、各地、各方面で始まっています。接種後の副反応について厚生労働省の発表をもとに、ワクチンの種類別に、どのような症状がどのくらいの確率で現れるか等について、保健師からお知らせします。

◎ファイザー社ワクチンの場合

■接種後、すぐに現れる可能性のある症状

接種当日

アナフィラキシー
・薬や食物が体に入ってから、短時間で起こることのあるアレルギー反応です。
・麻疹疹などの皮膚症状、腹痛や嘔吐などの消化器症状、息苦しさなどの呼吸器症状が急に起こります。血圧低下や意識レベルの低下（呼びかけに反応しない）を伴う場合を「アナフィラキシーショック」と呼びます。
・起こることは極めて稀ですが、接種後に、もしアナフィラキシーショックが起こっても、すぐに対応できるよう、ワクチン接種会場や医療機関では、医薬品等の準備をしています。

血管迷走神経反射
・ワクチン接種に対する緊張や強い痛みをきっかけに、立ちくらみしたり、血の気が引いて時に気を失うことがあります。
・誰にでも起こる可能性がある体の反応で、通常、横になって休めば自然に回復します。
・倒れてケガをしないように、背もたれのある椅子に座り、様子をみてください。

接種後、数日以内に現れる可能性のある症状

ワクチン接種した日の注意
・通常の生活は問題ありませんが、激しい運動や過度の飲酒等は控えてください。
・接種部位は清潔に保ちましょう。接種当日の入浴は問題ありませんが、注射した部分は強くこすらないようにしましょう。

発現割合	症状
50%以上	接種部位の痛み、疲労、頭痛
10～50%	筋肉痛、寒寒、関節痛、下痢、発熱、接種部位の腫れ
1～10%	吐き気、嘔吐

（保健だより抜粋）